

牧之原市の津波対策事業

—安全安心なまちづくりを目指して—

問い合わせ 建設課 池田 ☎2628
建設管理課 山田 ☎2627

津波避難施設が完成

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、私たちは、津波に対する恐怖を目の当たりにしました。

この震災を契機として、市では、沿岸部の5小学校区を単位として、地域住民による「津波防災まちづくり計画書」を作成しました。そして、この計画に基づき、各地区に12の避難施設と20の避難地避難路を作ることを決め、平成26年度から事業に着手しました。

避難施設の形態はさまざまで、避難タワー、いのち山、防災公園、避難ビル、さらに裏山へ駆け上がる避難地避難路など「避難施設のデパート」と呼ばれるほど、その地区の実情に合った施設を建設してきました。

本年10月末を持って、32カ所目となる避難地避難路が完成し、住民の皆さまの命を守る施設が整いました。

今後は、この施設を活用し、避難訓練などを行いながら防災意識を高め、いざという時には、まず人の命を守るための避難行動を起こしていただきたいと思えます。



防災訓練で実際に避難地に避難する住民

海岸堤防整備促進に向けた式典を開催

静波海岸で10月26日、市と自治会地区長会の主催により、市内のレベル1津波（※）対策事業促進に向けた式典が開催されました。式典には、国會議員、県會議員、市會議員、行政、沿岸部自治会の皆さまなど約150人が参加し、今後の事業促進に向け意識を高めました。

式典では、種茂和男地区長会長が、「地域住民が安全安心に生活でき、避難する時間と財産を守る堤防建設を」と期待を込めてあいさつ。杉本市長は、「これまでの国・県・議員の尽力に感謝したい。市でも総額54億円かけ、津波避難施設を整備してきた。今後も継続して事業を進めていただきたい」と呼びかけました。

本市の海岸延長は約15キロメートル。海岸堤防整備事業は、国土交通省、静岡県、牧之原市により進められています。

本年度は、静岡県と牧之原市の整備予算が約7億円計上されており、今後、レベル1津波対策事業が本格化していきます。

※レベル1津波とは、これまで地震被害想定の対象としてきた東海地震のように、発生頻度が比較的高いもの（駿河・南海トラフでは約100年から150年に1回）で、発生すれば大きな被害をもたらす津波のことを指します。
市内海岸における堤防などの津波対策施設は、この高さに対応した整備を行います。

榛原港海岸の整備イメージ（令和元年度）



地頭方漁港海岸の整備状況（平成28～30年度）



静波海岸で行われた式典の様子

さまざまな津波避難施設

市防災研修センター（避難ビル）（相良区）



避難タワー（静波区）



金刀比羅山防災公園（相良区・福岡区）



大江防災公園（いのち山）（大江区）



避難地避難路（遠渡区）

